(C)十勝毎日新聞社

第4部
つながる笑顔2016
スポーツ

73 福島集大成
76 五輪候補生
79 人生第二幕
81 燕戦士いざ

桑井 リオで金

「目標はリオ五輪での金メダル獲得」。意欲に燃える女子ラグビーの桑井亜乃

日本代表合宿で厳しい練習に励んだ桑井

動画あり 紙電子版

女子7人制ラグビー日本代表「サクラセブンズ」の主力として、ブラジル・リオデジャネイロ五輪の日本の出場を決めた幕別町出身の桑井亜乃（26）。アジア予選では、東京大会で2トライを決め、体格を生かした力強いタックルとセットプレーでの活躍が光った。8月5日開幕の大舞台まであと217日。大目標の「金メダル獲得」へ気持ちを高ぶらせている。（松村智裕）

「十勝に恩返ししたい」

女子ラグビー　桑井　亜乃（26）＝幕別町出身

ぶつかる。起き上がる。走る。また相手を倒し、楕円（だえん）球を追う。7人制ラグビーの運動量は同じフィールドで戦う15人制をはるかに上回る。そして「世界一速いラグビー」を掲げる日本は、その練習量も半端ではない。

代表としての活動は、遠征や合宿などで年間200日を超える。4部練習は当たり前。時にはレスリング関係者を呼んでタックルを学び、自衛隊の体験入隊で精神面を鍛えた。「全てはオリンピックで戦うため」だ。

3歳のころ、親と一緒に陸上大会で3㌔を完走し、周囲を驚かせた。姉の影響で幕別の陸上少年団へ。五輪を夢見たのは小学2年生のとき。1998年長野五輪のスキージャンプの映像を見て「私も出てみたいと思った」。陸上の中・長距離選手として好成績を収めたが、幕別中2年で左膝を痛め、投てき種目に転向。努力を重ね、帯農高では円盤投げで国体5位になった。

しかし、進学した中京大では伸び悩んだ。ラグビーを知ったのは大学での体育授業で。「楽しい」と魅力を感じ、7人制がリオ五輪の正式種目に採用されたことを知った。大学を卒業し、ラグビーのメッカ・埼玉県熊谷市にある立正大大学院で本格的に競技に取り組んだ。陸上出身の桑井のほか、バスケットボールなど他競技からの転向組も多かったが、誰もが五輪を夢見ていた。

陸上も全国の舞台へ。のじぎく兵庫国体の少年女子円盤投げで５位入賞を果たす（2006年10月）

陸上で鍛えた体幹や、高校3年まで続けたアイスホッケーで培ったゲーム感覚も大きな武器となった。「これまでの練習や経験が生きている。指導してくださった多くの方に感謝したい」

昨年12月から世界の上位と戦うワールドシリーズ（WS）に参戦。WSランク1位のニュージーランドなど世界のレベルは高いが「7人制では何が起こるか分からない。五輪では金メダルを取る。お世話になった人へ恩返しをしたい」と、真夏のリオで大輪のサクラを咲かせるつもりだ。

桑井にはもう一つの夢が生まれている。エディー・ジャパンの快進撃で火が付いたラグビー熱をさらに盛り上げることだ。「4年前は十勝のスポーツ店を3軒回ってもラグビーボールは1つも置いていなかった。十勝でもっとラグビー人気が高まるようにしたい」と使命感を抱く。「私が五輪でプレーしている姿を見て、ラグビーをやりたいと思ってくれる女の子が十勝から出てきたら最高ですね」

女子アイスホッケーでも活躍した桑井（左）。全道女子Bプール大会決勝での笑顔（2006年1月）

171㌢　67㌔

元陸上、アイスホッケー選手

くわい・あの　1989年10月20日幕別町生まれ。幕別小、幕別中、帯農高、中京大、立正大大学院修了。大学卒業まで陸上競技に打ち込んだ。アイスホッケーでも幕別少年団、御影グレッズに所属して高3までプレーした。現在は埼玉県熊谷市の八木橋百貨店に勤務する。クラブチームのアルカス熊谷所属。171㌢、67㌔。